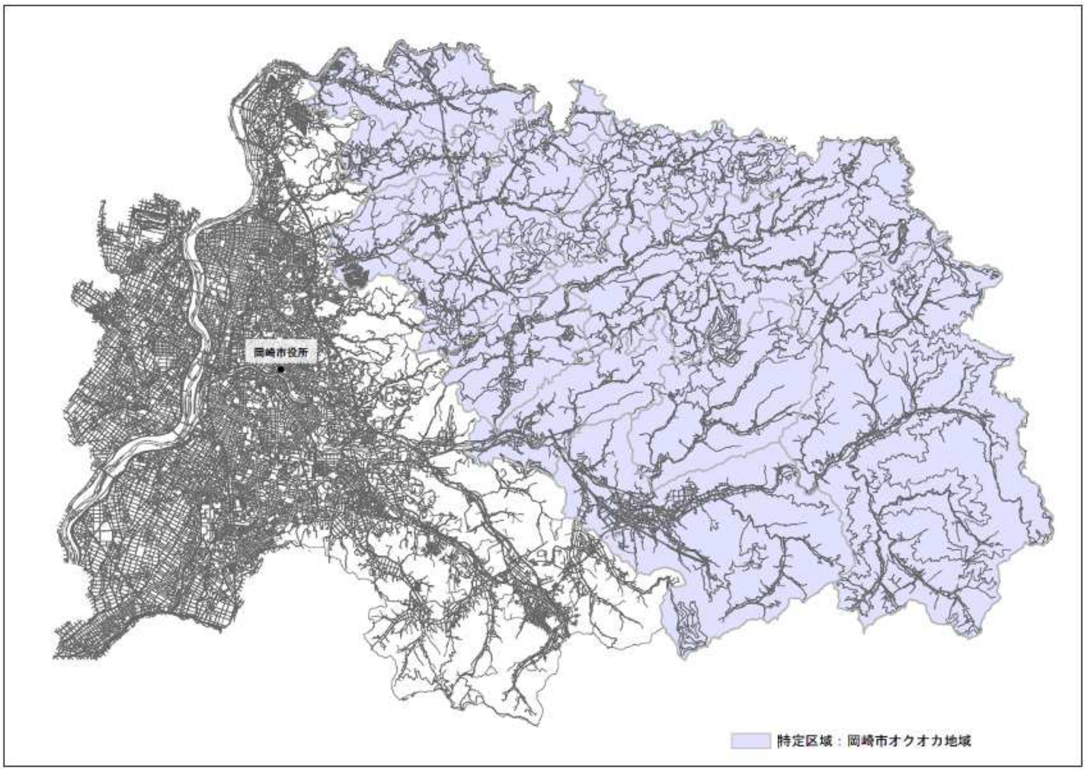
（別紙２－１）

特定区域の区域及び事業活動の内容（岡崎市）

１．特定区域の区域

（１）区域

岡崎市（生平学区、秦梨学区、常磐南学区、常磐東学区、常磐学区、恵田学区、奥殿学区、豊富学区、夏山学区、宮崎学区、形埜学区、下山学区の12学区（ただし、市街化区域は除く。））（以下、「オクオカ地域」という。）



（２）当該区域の特性及び区域設定の理由

オクオカ地域は岡崎市の中山間に位置しており、乙川水系の豊富な水と肥沃な大地に恵まれ、高速道路や主要幹線道路網が整備された立地条件を生かし水稲や露地野菜などの土地利用型農業が中心に行われている。

近年では都市部からのアクセスの良好さなどから、農泊施設やカフェ、キャンプ場の新規出店及び計画がなされるとともに、環境への意識から、当該地区における有機農産物のニーズも高まっている。

有機農業については、宮崎学区でブランド化されている茶をはじめとして、稲や野菜、果樹などの品目についても取組が広まりつつあるが、いまだ一部の取組であり面的な広がりがあるとは言えない。

また、本市は水道用水の多くを一級水系矢作川の最大支流である乙川の表

流水などの自己水でまかなっている。特に、オクオカ地域は水道用水の約半分（約20万人の使用に相当する。）を取水する大切な水源地域となっている。

そこで、本区域を特定区域として設定することを契機として、「岡崎の水」を守るために行う持続可能な農業としてブランド化し、地域一体となって、有機農業の生産技術の確立、慣行農家及び農業に関心がある移住者への当該技術の普及、企業等と連携した有機農産物の消費促進を行うことで、農業における担い手不足、荒廃農地の拡大といった地域課題の解決を図る。

２．特定環境負荷低減事業活動としても求められる事業活動の内容

（１）活動類型　有機農業の生産活動

（２）特定環境負荷低減事業活動の内容

オクオカ地域では、持続的に有機農業を実践するため、都市部住民等による半農半Ｘの推進を重点的に行い、都市部から農村部への人の流れを促進するとともに、有機農業者やＪＡ、商工会等が参画する「有機農業産地づくり協議会」を中心に、有機農業の栽培技術の蓄積及び継承を積極的に行うことで地　域として新たな有機農業者の増加、産地の維持・活性化を図る。

また、スマート農業技術の導入等による省力化、高品質化、作業の平準化を図るとともに、放置竹林を活用したバイオ炭の施用等のカーボンニュートラルへの取組とも連携した新たな栽培技術を構築し、有機農業栽培面積の増加及び団地化を目指す。

さらに、地域内で生産された有機農産物の消費拡大を図るため、学校や企業等との連携を図りながら地域内流通の構築や６次産業化等を推進するとともに、地域を有機農業産地としてブランド化していく。